

1941年10月に摘発された「ゾルゲ事件」。戦

前の日本で暗躍した旧ソ連のスパイ、リヒャルト・ゾルゲが現在、ロシアでブームになつてゐる。日本では未公開だった機密文書を掲載した資料集も発刊された。伝説のスパイは何を残したのか。

リヒャルト・ゾルゲ。日本の妻だった石井花子には「友達はない。寂しい」(NHK「現代史スクープドキュメント 国際スパイ・ゾルゲ(1991年)」から)と弱音をはいたという

ゾルゲは第2次世界大戦時に東京で諜報グループを組織し、機密情報をモスクワへ送り続けた。課された任務は、日本軍がシベリアに北進するのか、あるいは仏領インドシナへ南進するのかの情報収集。ゾルゲたちは膨大な証拠を掴み、打電。任務をほぼ遂行したところで逮捕された。

ロシアでは近年、祖国を救つた英雄として評価が急上昇し、ゾルゲ・ブームが起きている。モスクワや極東のウラジオストクなどにゾルゲの銅像が建立され、モスクワ地下鉄外環状線の新駅は「ゾルゲ駅」と命名。ロシアの各都市には「ゾルゲ通り」と名付けられた街路が続々と誕生した。

2019年に国営

テレビが歴史ドラマ「ゾルゲ」(全12話)を放映。その後、映画も公開される。

評伝や資料集な

ど関連本も続々と出版されている。日本研究者のアンドレイ・フェシュン氏(モスクワ大学東洋学部准教授)はゾルゲが送った電報や書簡、モスクワからの指令など650点の機密文書を編纂。その中から1941年以降の文書218点を収録した『ゾルゲ・ファイル』(1941-1945)(みず書房)がこのほど刊行された。日本では、大半が初公開の文書だ。

訳者の名越健郎・拓殖

大学特任教授(元時事通信記者)が、ロシアを席巻するゾルゲ・ブームについて解説する。

「ロシアは、ウクライナへの軍事侵攻によつて経済制裁を受けて孤立しています。現在の厳しい安

ど関連本も続々と出版さ

れていた。チノ政権は命がけで祖国のために情報工作を行つたゾルゲの忠誠心を賛美し、愛国主義を鼓舞しようとの狙いがあるのです」

ゾルゲは1895年、ドイツ人の父とロシア人の母の間に生まれる。ロシア革命に共鳴し、大学生の時にドイツ共産党に入党。モスクワに移りコミニンテルン(国際共産党)に所属した後、ソ連赤軍参謀本部情報局にスカラントされて、諜報活動に従事する。偽装のためナチス入党し、1933年、ドイツ紙特派員を表向きの仕事として来日する。日本的情報に精通したゾルゲは、駐日大使館でキヤッヂスにて解説する。

ソ連は39年8月、英仏との対立を強めるドイツとの間で独ソ不可侵条約を締結。同年9月、ポーランドに侵攻したドイツに対し英仏が宣戦布告し、第2次世界大戦が勃発する。一方で、ヒトラーは水面下でソ連侵攻作戦「バルバロッサ」の策定を進めていた。その動向を、ゾルゲは東京のドイツ大使館でキヤッヂスにて解説する。

41年3月10日、モスクワの情報本部へ次のように電報を送る。

「新任の武官は、今戦争が終了したら、ドイツの激烈な対ソ戦争が始まること違ひないと考へています。現在の自國優先主義のような偏狭なナショナリズムが蔓延してしまった。このため戦争が起きたのですが、その中でゾルゲと尾崎は共産主義者として、インテナショナリズム(国際主義)を共有していました。最終的に世界平和を目指すために、まずは日ソ間の戦争を回避させるという同じ使命感を持つたのです」

ゾルゲと尾崎に死刑が執行されたのは、44年11月7日。ロシア革命記念日だった――。

ルゲは、駐日ドイツ大使館のオット大使から絶大な信頼を得る。

友だつた朝日新聞記者の尾崎秀実とともに、日本人エージェントを含む十数人のスパイ網を構築した。

ソ連は39年8月、英仏との対立を強めるドイツとの間で独ソ不可侵条約を締結。同年9月、ポーランドに侵攻したドイツに対し英仏が宣戦布告し、第2次世界大戦が勃発する。一方で、ヒトラーは水面下でソ連侵攻作戦「バルバロッサ」の策定を進めていた。その動向を、ゾルゲは東京のドイツ大使館でキヤッヂスにて解説する。

41年3月10日、モスクワの情報本部へ次のように電報を送る。

「新任の武官は、今戦争が終了したら、ドイツの激烈な対ソ戦争が始まること違ひないと考へています。現在の自國優先主義のような偏狭なナショナリズムが蔓延してしまった。このため戦争が起きたのですが、その中でゾルゲと尾崎は共産主義者として、インテナショナリズム(国際主義)を共有していました。最終的に世界平和を目指すために、まずは日ソ間の戦争を回避させるという同じ使命感を持つたのです」

ゾルゲと尾崎に死刑が執行されたのは、44年11月7日。ロシア革命記念日だった――。

ルゲは、駐日ドイツ大使館のオット大使から絶大な信頼を得る。

友だつた朝日新聞記者の尾崎秀実とともに、日本人エージェントを含む十数人のスパイ網を構築した。

ソ連は39年8月、英仏との対立を強めるドイツとの間で独ソ不可侵条約を締結。同年9月、ポーランドに侵攻したドイツに対し英仏が宣戦布告し、第2次世界大戦が勃発する。一方で、ヒトラーは水面下でソ連侵攻作戦「バルバロッサ」の策定を進めていた。その動向を、ゾルゲは東京のドイツ大使館でキヤッヂスにて解説する。

41年3月10日、モスクワの情報本部へ次のように電報を送る。

「新任の武官は、今戦争が終了したら、ドイツの激烈な対ソ戦争が始まること違ひないと考へています。現在の自國優先主義のような偏狭なナショナリズムが蔓延してしまった。このため戦争が起きたのですが、その中でゾルゲと尾崎は共産主義者として、インテナショナリズム(国際主義)を共有していました。最終的に世界平和を目指すために、まずは日ソ間の戦争を回避させるという同じ使命感を持つたのです」

ゾルゲと尾崎に死刑が執行されたのは、44年11月7日。ロシア革命記念日だった――。

# 蘇るスパイ・ゾルゲ

## 未公開「機密文書」が暴いた日独同盟の野望

銅像建立、ドラマ・映画化、「ゾルゲ駅」も…  
ロシアで大ブームのワケ



東京・多磨靈園にあるゾルゲの墓。左の「ゾルゲとその同志たち」の碑には尾崎秀実の名も刻まれている

る」と具体的な日付を明示。この情報は来日中のドイツ軍人で、ゾルゲと親交のあるショル中佐からもたらされたものだつた。15日には〈対ソ戦はおそらく6月末まで延期される〉と訂正。20日には、〈オットは、独ソ戦はもはや避けられないと私に語つた〉と報告する。名越氏が語る。

「5月2日の打電は最も有名ですが、今回、ドイツ軍のソ連攻撃を予告した電報が10本程度も公開されました。しかし、ストーリンはゾルゲの再三の警告を無視し、ヒトラーを最後まで信用して戦争準備を怠つたのです。

「ゾルゲは10月に逮捕され、ドイツ大使館からソ連に情報が筒抜けになつたことが明らかになります。日独間の信頼関係は失墜し、軍事的な連携にひびが入つた。それはある意味、最大の功績と言つていい。日本は眞珠湾攻撃をする際、ドイツには事前に一切知らせていません。日本は単独で日米開戦へと突入していくのです」(名越氏)

ゾルゲは近衛文麿政権の内閣嘱託に就いていた尾崎を通じ、7月2日の御前会議で決定された内容を掌握。7月10日の電報でこう伝えた。

「サイゴン(インドシナ)への軍事行動計画を変更しないことが、御前会議



ゾルゲの盟友だった尾崎秀実

で決定された。ただし、赤軍の敗北に備えて、対ソ軍事行動の準備をしておくことも同時に決定された。情報本部は〈この動向を警戒せざるを得なくなつた。当時、日本はソ連を攻撃する「北進」と、仏領インドシナに進駐する「南進」で国論が二分されていた。

「ゾルゲは10月に逮捕され、ドイツ大使館からソ連に情報が筒抜けになつたことが明らかになります。日独間の信頼関係は失墜し、軍事的な連携にひびが入つた。それはある意味、最大の功績と言つていい。日本は眞珠湾攻撃をする際、ドイツには事前に一切知らせていません。日本は単独で日米開戦へと突入していくのです」(名越氏)

本誌・亀井洋志

## 活動露見により 日独関係にひび

有名ですが、今回、ドイツ軍のソ連攻撃を予告した電報が10本程度も公開されました。しかし、ストーリンはゾルゲの再三の警告を無視し、ヒトラーを最後まで信用して戦争準備を怠つたのです。

「ゾルゲは10月に逮捕され、ドイツ大使館からソ連に情報が筒抜けになつたことが明らかになります。日独間の信頼関係は失墜し、軍事的な連携にひびが入つた。それはある意味、最大の功績と言つていい。日本は眞珠湾攻撃をする際、ドイツには事前に一切知らせていません。日本は単独で日米開戦へと突入していくのです」(名越氏)

本誌・亀井洋志